



戦後80年：

# 平和に対する私たちの意識

## ■ 着想の経緯

- 2024年7月28日・8月4日「子どもに伝える戦争」(朝日新聞)の記事から、過去の戦争について知る平和教育の実態と効果に関する心をもった。
- 2025年7月7日「仙台市戦災復興記念館／小中生の利用低迷」(河北新報)の記事で施設見学の学習機会が減っていることを知った。

- 2025年6月6日に戦災復興記念館(仙台市)を訪問して、戦争の悲惨さと当時の市民の生活に心が痛んだ。「国のために」という気持ちに仕向けられるものが日常生活に多くあり、国の命令に従って戦わざるを得ない状況だったことを知った。二度と戦争を起こしてはならないと思った。

## ■ 内容の概要

- 戦後80年間、戦争放棄・平和主義を守り続けてきた日本において、私たちの戦争や平和についての意識は?

➡ 4つのテーマで研究報告します。

### ① 平和教育・平和学習の実態とその効果

経験は地域差がある! 加害の歴史について学びが少ない!

### ② 戦争への関心と当事者意識

若い世代は関心度が低い! 若い世代でも地域差あり!

### ③ 国を愛するとは? : 現代日本人の国への愛着

国に愛着を持つ人は多く、公共の利益は大切にするが、国に従うわけではない!

### ④ 国への愛着と定住外国人への態度

12年前より外国人受入数の減少を希望。愛着有群でも詳細意見は揺れている?



**【報告者】** 2025年度 心理行動科学科 1年次生 (心理学実践セミナー木野班)

一條波那、伊藤恵奈、稲葉祐美、大野美尋、小川真和、小山來未、加藤海羅、神内美咲、川西虹光、齋藤和心、酒井陽菜、笠田愛、佐藤渚、高橋花音、田崎美結、沼田凜香、根立有璃彩、日野花音、尾留川巴菜、藤原小陽、藤原光希、丸山葵、渡邊聰那 (50音順)

# 1. 平和教育の実態と効果

## 【目的】

- 学校で受けた「戦争に関する平和教育」について、**地域差や世代差**を調査する。
- 平和教育の効果について、記憶や知識、その後自主的に学習機会を持ったかなどの観点から調べる。

人間の生命の尊厳の思想に基づいて、人間の生命を否定する一切の力（特に戦争）に反対し、平和を築く民主的主権者を育てる教育のこと。（文献1）

## 【方法】 WEBアンケート

### <データA（委託）>

- 実施時期：11月5日～11日
- 対象者：**広島/長崎/沖縄在住の大学生 61名**（18～25歳）

内訳

### <データB（縁故法）>

- 実施時期：11月1日～11日
- 対象者：**上記以外の地域の229名**（18歳以上）

### <主な質問内容>

- 学校での平和教育経験
- 自主的な平和学習経験
- 戦争への関心と当事者意識

研究2で  
使用

		男性	女性	回答しない	計
データA	18歳～20代 (広島など)	10	51	0	61
データB	18歳～20代	27	125	3	155
	30代～40代	19	18	1	38
	50代～80歳	16	20	0	36
	計	72	214	4	290

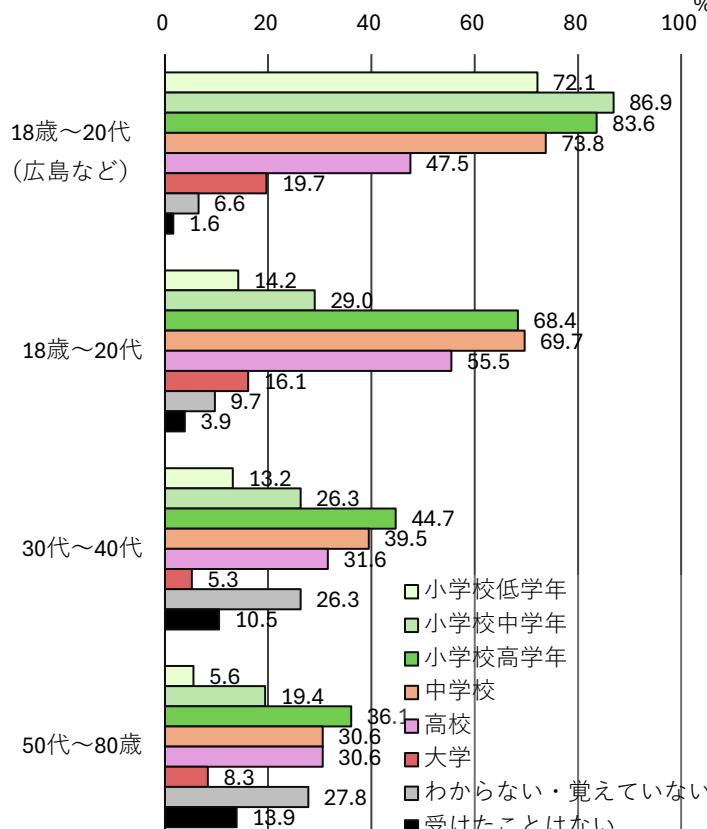
## 【結果と考察】

### ① 学校で「平和教育」を受けた時期

- 全体に：小学校高学年と中学生で高率
- 世代差：若い世代ほど、学校で平和教育を受けている割合が高い。
- 18歳～20代で地域比較：  
広島・長崎・沖縄在住者の方が、早い時期から受けている  
(小学校低学年も多い。  
義務教育期間は7割を越える)

⇒ 学んだ内容等は次のページへ

図. 世代等別の各学校段階で平和教育を受けた率 %



# 1. 平和教育の実態と効果

## ②学校で受けた平和教育

■ 経験した中で、最も興味・関心 □ 経験はした □ 未経験  
※図中の数値は人数

図1. 18歳～20代（広島など）61人

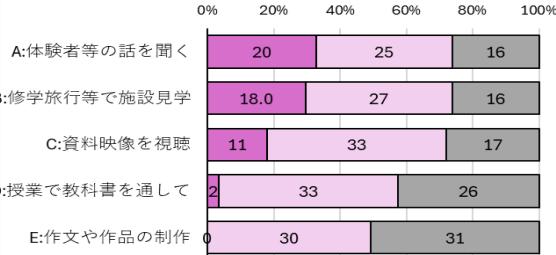
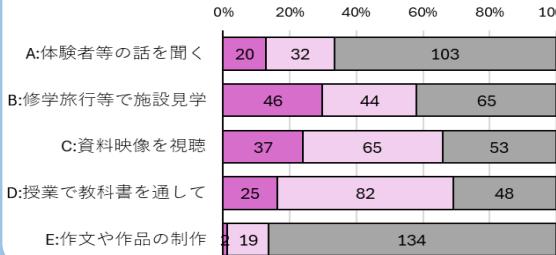


図2. 18歳～20代 155人



**地域差**：図1では「体験者の話を聞く」で経験率も、興味・関心の率も高いが、

図2では「教科書」での経験率が高く、興味・関心の率では「修学旅行等での見学」が高い。

**年代差**：どの世代も「教科書」での経験率が高い。世代で興味・関心を持つものは異なる。

図3. 30代～40代 38人

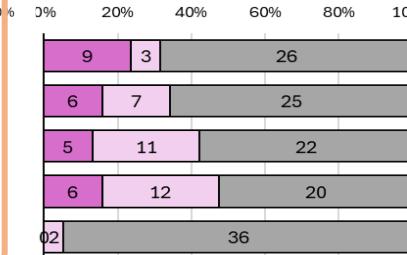
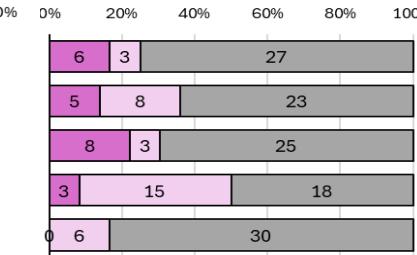


図4. 50代～80歳 36人



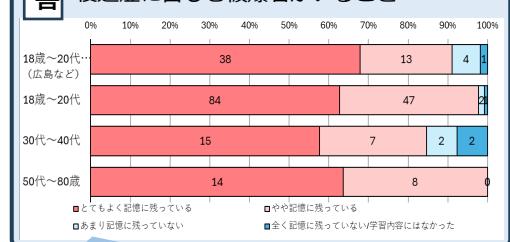
## ③学校で受けた平和教育の効果（記憶と感想）

文献1を参考に項目を用意

### 〈記憶に残ったか？〉

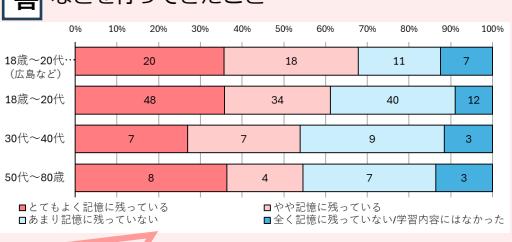
#### 被害

原子爆弾によって、多くの死者が出たこと、後遺症に苦しむ被爆者がいること



#### 加害

日本軍がアジアに侵攻し、虐殺行為や違法行為などをやってきたこと



記憶に残ってる人が多い

「被害」と比べて記憶に残っている人が少ない

↑ 文献2でも加害の学習率が低いという指摘あり

→ 被害を強調する一方で、**加害の歴史に向き合う姿勢が不十分**？

**★加害の歴史の学習は戦争の再発防止と、これからの平和を実現のために不可欠。**

### 〈感じたこと（感想）〉

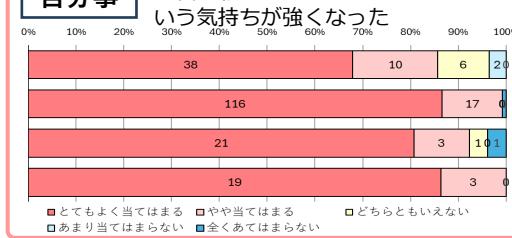
#### 他人事

今の時代に生まれてよかった



#### 自分事

二度と戦争を起こしてはならないという気持ちが強くなった



● 50代～で当てはまるの回答率が高い

→ 戦後直後に比べて今の暮らしは安定していると感じているため？

- 広島などで「とてもよく当てはまる」の回答率が低い

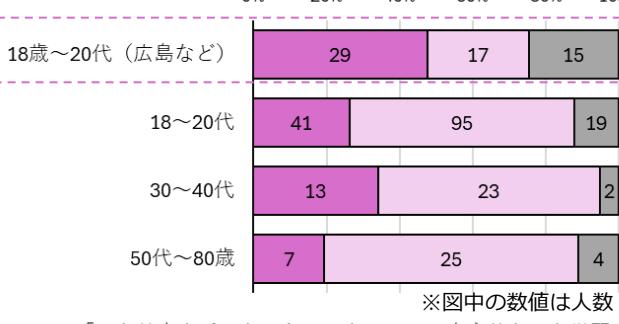
→ 元から戦争を起こしてはいけないという気持ちが強いのではないか？

● 広島などで当てはまるの回答率が低い

→ 幼い頃からの教育によって戦争を自分事として捉える姿勢が育まれているため？

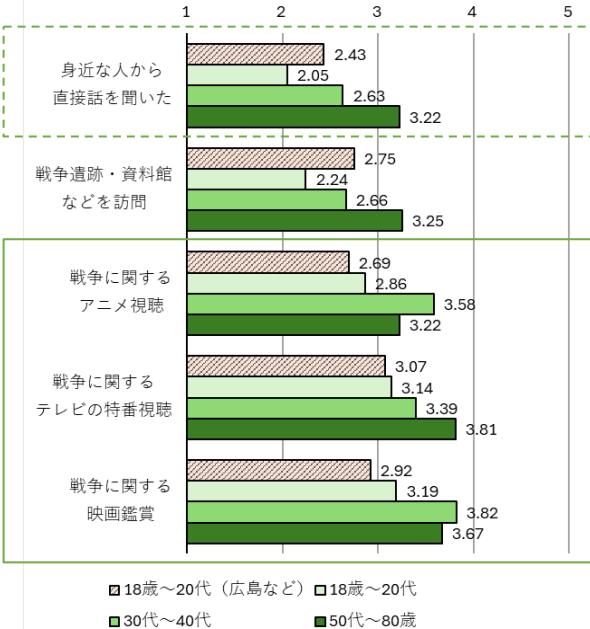
# 1. 平和教育の実態と効果

## ④自主的な平和学習の経験と効果 (自主的な経験率)



- 「平和教育を受けたから」がきっかけの自主的な平和学習
- その他のきっかけでの自主的な平和学習
- ▣ 自主的な平和学習の経験なし

## 〈経験した学習内容と関心度〉



- 全体的に、**自主的に平和学習**をしている人が多い。

### ● 広島など（18歳～20代）

自主的に平和学習をしている割合が低めだが、きっかけがその「学校での平和教育」と答えた割合が高い。

- ➡ 学校での平和教育が多いため自主的にはしない？一方できっかけにもなりやすい。

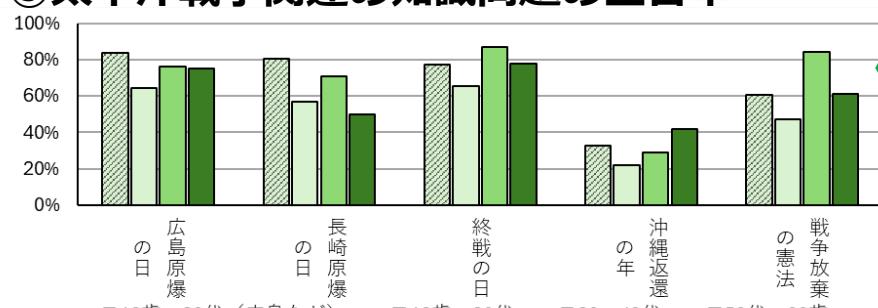
- 「**身近な人から直接聞いた**」は経験・関心度が**低い**（特に若い世代）

- ➡ 若い世代の周りには、直接戦争経験のある人が少くなり、聞く機会そのものがすくない。また、昔話のように聞こえる？

### ● 「**アニメの視聴**」「**テレビの特番視聴**」「**映画鑑賞**」

- 全体的に**多い**
- しかし、**若い世代の方が高くなりそうな項目**なのに、世代が高い方が経験・関心度が高いのはなぜ？
- ➡ 「好きな俳優が出演していたから」「感動するストーリーだったから」など、視聴後の着眼点がエンタメ的な要素に傾いて、戦争そのものには関心が湧かなかったからでは？

## ⑤太平洋戦争関連の知識問題の正答率



- 18歳～20代は、**広島などの地域**の方が**正答率が高い**

- ➡ 教育や意識に差がある？

- 「**沖縄返還の年**」は、**50代～80歳**の正答率が**比較的高い**

- ➡ リアルタイムの歴史であるため、印象に残っている人が多い？

※日本赤十字社の2025年調査では「広島、長崎の原爆の日と終戦の日を知っている」と答えた人は75%前後だった(文献1)

→ 本研究の知識問題の正答率もほぼ同様の結果だった。

# 2. 戦争への関心と当事者意識

## 【目的】

戦争を“自分にも起きるかもしれないこと”として考えるかどうか

- 戦争への関心や当事者意識がどの程度あるのかについて…
  - 世代による違いを検討する。
  - 広島/長崎/沖縄在住者と、他地域在住者で地域差を検討する。

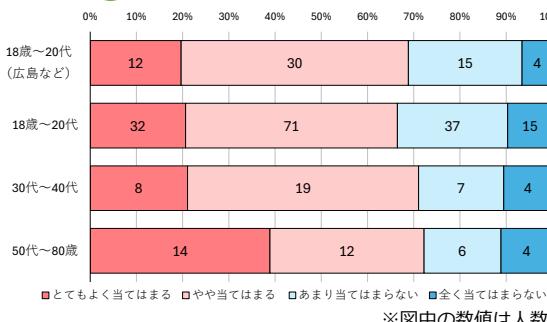
【方法】 WEBアンケート  
対象者は研究1と同一

### <質問項目>

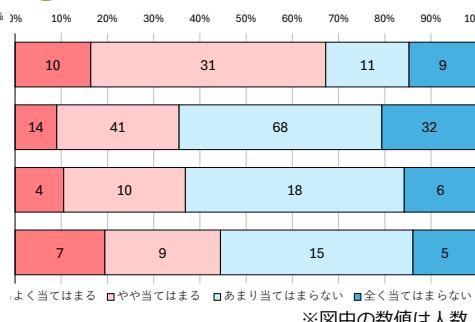
- ① 戦争に関する報道が流れていたら（出ていたら）、積極的に見よう
- ② 戦争について知ることができる機会（企画展や講演会など）があれば、積極的に参加しなければならないと感じる
- ③ 世界で起きているような戦争が、今後10年間に日本でも起こると思う
- ④ もし日本で戦争が起きたとしたら、どう対応したいか考えたことがある

## 【結果と考察】

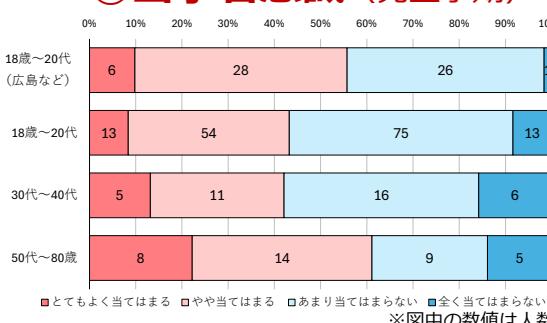
### ① 関心（報道視聴）



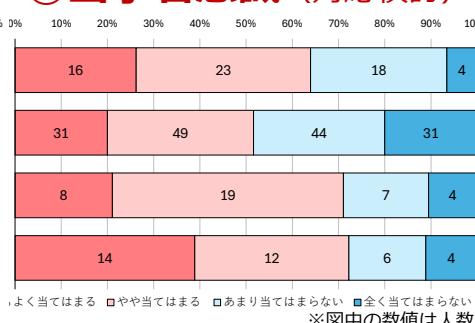
### ② 関心（参加義務）



### ③ 当事者意識（発生予期）



### ④ 当事者意識（対応検討）



- ①報道視聴は、世代・地域を問わず、高い

- 他方、②参加義務となると低くなりがち

- ただし、②参加義務でも広島などの地域で、高い

➡ 「平和教育」の影響？



- ④対応検討の方が、③発生予期よりやや高め

➡ 映画やドラマなどを視聴する時に、自分に置換えて想像したりはするが、実際に起こるとはあまり思っていない？

- 50代～80歳で当事者意識が高い

➡ 親・親類等の身近な人が、戦争を直接経験しているから？

- 広島などの地域の方が、他地域の同世代より当事者意識が高い

➡ 大規模で、長期的な被害などの歴史があるから？

# 3. 国を愛するとは？国への愛着

## (1) 国への愛着とその背景

### 【目的】

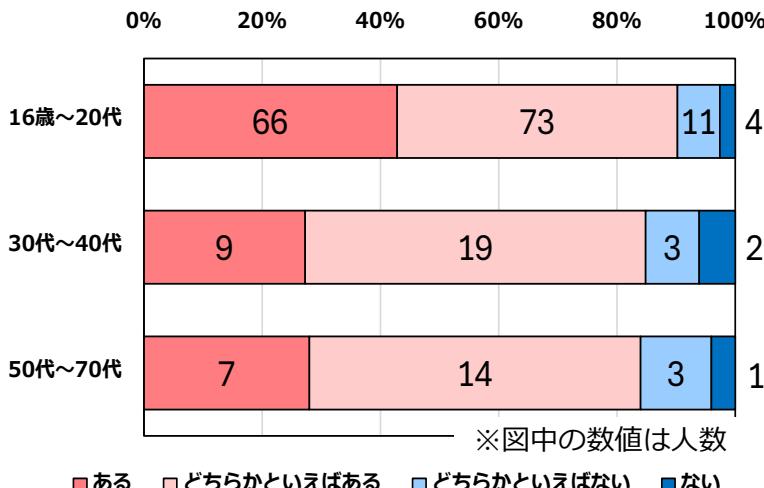
- 戦災復興記念館で、戦時中、人々の国への思いを強める標語などが日常にあふれていたのを知った
- では、今の私たちにとっての国への思いは？ また、何から国への愛着や誇りを得るのかを調査する

情緒的な親しみやつながり  
価値を感じて胸を張れる気持ち

これらにより、自國への関心や平和・歴史の理解につなげたい。

### 【結果と考察】

#### Q1. 「国を愛する」という思いはあるか？



- 「どちらかといえばない」「ない」と回答した人は少数（11.3%）。

→内閣府の調査(文献1)では「強いー弱い」でたずねているが、この「弱い」の結果とほぼ同じ。ただし、本研究では「ない」と言い切る人の存在を確認できた。

### 【方法】WEBアンケート(縁故法)

- 対象者：16歳以上の方**212人**
- 実施期間：11月1日～11月11日
- 調査内容：(結果とともに紹介)

表. 回答者の年代と性別内訳

	男性	女性	回答しない	計
16歳～20代	27	125	2	154
30代～40代	12	19	2	33
50代～70代	14	11	0	25
計	53	155	4	212

- 全体では、「ある」「どちらかといえばある」と回答した人が多い（88.7%）。

- その理由（自由記述；任意）としては、
  - ①「自分の国だから」
  - ②「日本が好きだから」
  - ③「文化や人間性」
 と回答した人が多かった。

- ①自分の育った場所への親しみや安心感と、  
 ②③感情的な愛着と理由づけや理解に基づく愛着  
 …の両方を含むといえるのではないか？

「国への愛着」といえる？

では、その親しみや安心感、愛する思いは、何からきている？

# 3. 国を愛するとは? 国への愛着

## Q2. あなたにとって国を愛するとはなにか?

(自由記述; 必須回答)

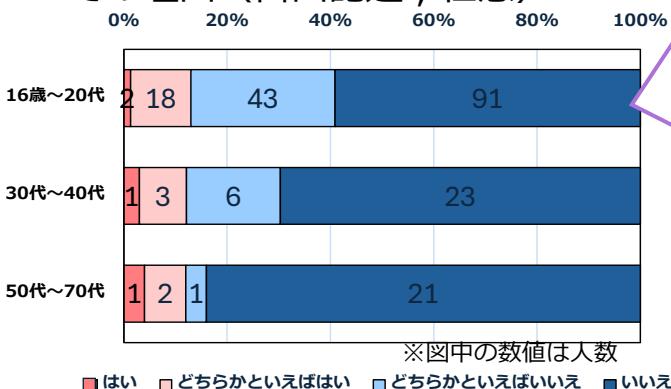
表. 研究グループの学生5名で協議し、各記述内容を分類した結果

	16歳～20代 度数	割合	30代～40代 度数	割合	50代～70代 度数	割合	計 度数	割合
①日本(人であること)を誇りに思う	33	21.4%	9	27.3%	2	8.0%	44	20.8%
②国・文化を愛する	18	11.7%	1	3.0%	2	8.0%	21	9.9%
③郷土・地元愛	2	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.9%
④国への信頼	11	7.1%	0	0.0%	1	4.0%	12	5.7%
⑤暮らし重視	11	7.1%	1	3.0%	2	8.0%	14	6.6%
⑥自國(状況や文化など)を把握・受け入れ	7	4.5%	1	3.0%	0	0.0%	8	3.8%
⑦国のために考える・行動する	36	23.4%	9	27.3%	4	16.0%	49	23.1%
⑧国の文化歴史を継承し、発展を願う	7	4.5%	3	9.1%	1	4.0%	11	5.2%
⑨国のために命をかけられる	5	3.2%	0	0.0%	1	4.0%	6	2.8%
⑩自國を大切にし他国にも好影響を与える	2	1.3%	0	0.0%	1	4.0%	3	1.4%
⑪自國中心(最優先)	4	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	4	1.9%
⑫わからない	5	3.2%	6	18.2%	2	8.0%	13	6.1%
⑬分類不能、その他	13	8.4%	3	9.1%	9	36.0%	25	11.8%
計	154		33		25		212	

50代～は分類不能が多く、多様な意見があった

## Q3. 日本のために命を捨てられるか?

その理由(自由記述; 任意)

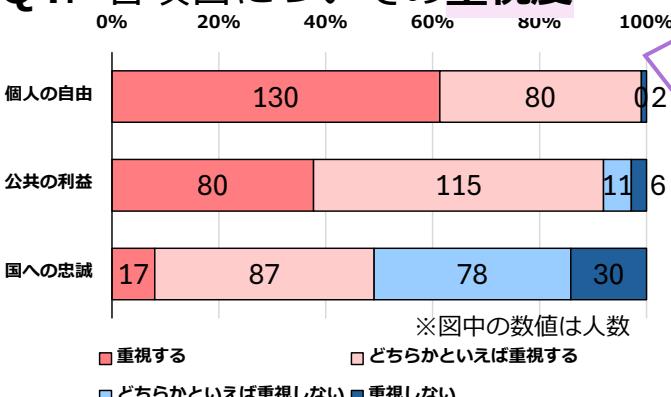


● 全世代で、約9割が命を捨てられない(いいえの方向)と回答

→ 「はい」「どちらかといえばはい」と回答: 国のためなら従う。  
 → 義務感や責任感が強い?

→ 「どちらかといえばはい」と回答:  
 「家族や友人のためなら捨てられる」  
 → 国という抽象的な存在よりも  
 身近な他者への愛着が強い?

## Q4. 各項目についての重視度



● 個人の自由と公共の利益 9割強 が重視

→ 他者への配慮も大切にする日本人の思いやりの精神などが分かる

● 国への忠誠は半々

→ 上記2つに比べて優先度が低く、  
 国のために犠牲になるという考  
 え方に共感しにくい

※参考: 世界価値観調査では  
 「国のために戦う」日本人は13%

● ①～⑥(計47.6%)

→ 行動よりも気持ちが  
 中心。 内面的で自身の価値観を重視

● ⑦～⑨(計31.1%)

→ 「国のために行動する」という積極性

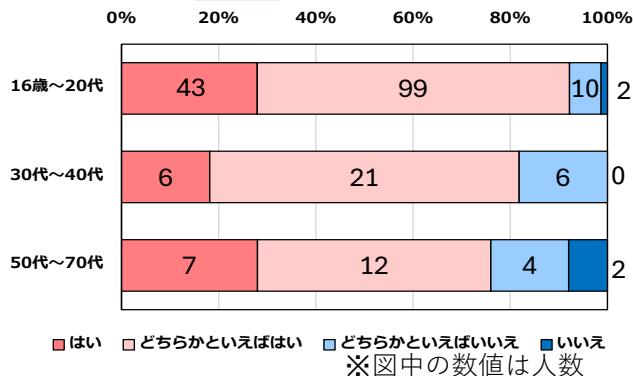
→ 戦時中の「国のために行動する」イ  
 メージの方が残っ  
 ているのではないかと予想して  
 いたが、 内面的なもの  
 のほうが多かった

「国を愛する」とは  
 「愛国心」よりも、  
 「国への愛着」のほ  
 うが近いようだ。

# 3. 国を愛するとは？国への愛着

国への思いを  
別の角度から…

## Q5. 国を信頼しているか？



- 全年代で70%以上が「はい」「どちらかといえばはい」を選択
- ただし、世代が上がるにつれて「どちらかといえばいいえ」、「いいえ」の割合が高くなる
  - 全体によい国だという意識があるが、年を重ねるにつれ、昔の良さは懐かしむものの、新しいものへの抵抗がある？

何が信頼に  
結びつくの  
かを探る

## 「国を信頼している人」と「していない人」の違いを検討

### ①日本の製品で信頼しているもの

	自動車	電化製品	電子機器	家具	飲料水
信頼群	86.2%	85.1%	68.6%	70.2%	91.0%
非信頼群	79.2%	50.0%	54.2%	41.7%	75.0%
	食料品	衣料品	文房具	いずれも信頼していない	その他
信頼群	94.1%	67.6%	69.7%	0.0%	0.0%
非信頼群	79.2%	45.8%	45.8%	66.7%	0.0%

### ②日本について誇りに思うもの

	芸術	スポーツ	科学技術	和装	伝統工芸
信頼群	59.0%	41.3%	45.7%	62.2%	70.7%
非信頼群	41.7%	33.3%	16.7%	62.5%	62.5%
	祭り	四季	和食	アニメ	いずれも当てはまらない
信頼群	56.9%	64.9%	79.3%	78.7%	1.1%
非信頼群	50.0%	41.7%	54.2%	45.8%	8.3%
	労働環境	教育面	いずれも当てはまらない	その他	
信頼群	16.3%	32.6%	0.0%	0.5%	
非信頼群	5.3%	15.8%	0.5%	0.0%	

### ③日本が暮らしやすい国だと思う理由

	安全面	衛生面	自然環境	気候	宗教・信仰
信頼群	91.3%	89.7%	45.1%	31.5%	27.2%
非信頼群	73.7%	94.7%	10.5%	26.3%	15.8%
	労働環境	教育面	いずれも当てはまらない	その他	
信頼群	16.3%	32.6%	0.0%	0.5%	
非信頼群	5.3%	15.8%	0.5%	0.0%	

### ④日本の社会保障制度などについて充実していると思うもの

	医療保険	介護保険	雇用保険 労災保険	年金	生活保護
信頼群	76.6%	25.0%	34.6%	19.1%	23.4%
非信頼群	66.7%	8.3%	29.2%	16.7%	37.5%
	児童手当	国の奨学金	男女雇用 機会均等法	育児休業 介護休業	いずれも当てはまらない
信頼群	16.0%	22.3%	17.6%	13.8%	12.2%
非信頼群	20.8%	4.2%	4.2%	8.3%	16.7%
	その他				
信頼群					1.1%
非信頼群					4.2%

「暮らしやすい」と答えた204名分を集計

- 共通して：安全面や衛生面への信頼が高い
- 自然環境が選択されにくい
  - 度重なる自然災害や環境破壊のためか？
  - さらに、**非信頼群**：これらのリスクに目が向くやすい？
- 共通して：医療保険の選択率が高い。
  - みんなにとって当たり前になっている？
- 介護保険や国の奨学金の選択率が低い。
  - 全体に行き届いていないから？
  - さらに、**非信頼群**：手続きの煩雑さに否定的か、あるいは今の自分に關係がないことだから関心が薄い？

# 3. 国を愛することは？国への愛着

## (2) 定住外国人に対する態度との関連

### 【目的】

- 「定住外国人の受入数」、「定住外国人が日本に与える影響」に関する意見について…
- ▶ 「国への愛着の有無」による比較を行う。
- ▶ 村田(2014; 2013年の調査結果)の結果と比較する。

※定住外国人に関する調査項目は、ISSP2013を利用 (文献2参照)

日本が好きな人は、定住外国人を排除したいと思うのか?

この10年で在留外国人は135万人増加し、約360万人に。外国人との接触が増え、私たちの意識が変わったのでは? (文献1)

### 【結果と考察】

#### ① 定住外国人の受入数について

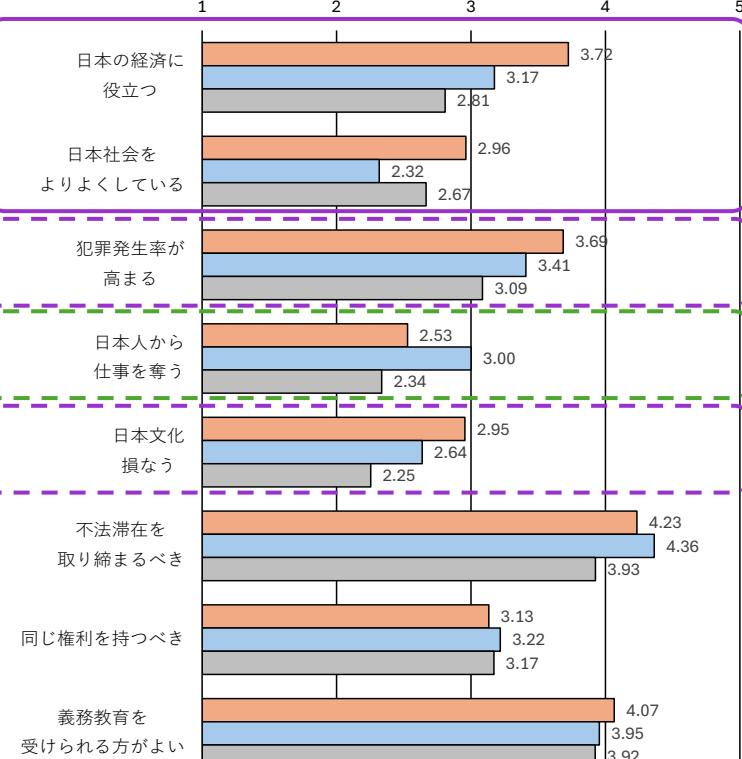
- 愛着の有無による差はほぼない
- 2013年の調査との比較では…
  - ▶ 減った方がよい→23%増加
  - ▶ 今ぐらいがよい→15.5%減少
  - ▶ 増えた方がよい→7.5%減少

「減少」を  
望む方向  
に変化

▶ 外国人との接触が増え、またネガティブな報道等があるため?

#### ② 定住外国人が日本に与える影響

■国への愛着がある群 □国への愛着がない群 ▨村田(2014)参考



国への愛着	定住外国人の受入数について <sup>(注1)</sup>			計
	減った方がよい	今ぐらいよい	増えた方がよい	
ある	83	72	24	179
ない	11	9	1 <sup>(注2)</sup>	21
計	94	81	25	200
%	47.0%	40.5%	12.5%	100%
参考%	24.0%	56.0%	20.0%	100%

注1: 「わからない」と回答した12名は除いて集計

注2: 1名だったが、以降の集計では参考に評定値を示す

注3: 村田(2017)におけるISSP2013の日本データより (文献3)

#### ● 愛着あり群>なし群の項目

肯定的な項目: 「日本の経済に役立つ」「日本社会をよくしている」  
 ▶ 愛着有群では、外国人を受け入れることで、多様性を尊重しつつ、日本社会をより良くしたい?

否定的な項目: 「犯罪発生率が高まる」「日本文化を損なう」  
 ▶ 愛着有群では、国が好きだからこそ、外国人を入れで日本の伝統文化や社会秩序が劣化/悪化することをより危惧するのではないか?

#### ● 愛着なし群>あり群の項目

「日本人から仕事を奪う」  
 ▶ なし群は2013年の結果と比べても高い。  
 ▶ 自分の権利が守られていないという意識が強く、仕事がなくなることへの抵抗感がより強いのではないか?